大学生のコミュニケーション能力向上についての一考察

山口　展希（生涯スポーツ学科　学校スポーツコース）
指導教員　森川　みえこ

キーワード：コミュニケーション　大学生

Ⅰ緒言

現在，社会問題として，コミュニケーション能力の低下が挙げられている．実際の子どもたちは気の合う限られた集団の中でのみコミュニケーションをとる傾向がある．

経済協力開発機構(2009)の生徒の学習到達度調査結果から，読解力に関して，情報相互の関係性を理解して解釈したり，自らの知識や経験と結び付けたりすることが苦手であることが指摘された．

本研究では，大学生のコミュニケーション能力の現状を調査し問題点がどのようなものかを明らかにする事を目的とする．

Ⅰ．　研究方法

調査対象は，Ａ大学の４回生の 43 名，３回生 61 名，合計 104 名の学生を対象とした．調査方法は，24 項目のコミュニケーション・スキル尺度を用いて質問紙アンケート調査を行った．また，コミュニケーション・スキルを構成する６つのスキルと 24 項目のサブスキルである質問項目を設定して調査を行った．回答は，7 段階で評価させ，7 を「かなり得意」，6 を「得意」，5 を「やや得意」，4 を「ふつう」，3 を「やや苦手」2 を，「苦手」1 を，「かなり苦手」として，尺度得点を算出する．

Ⅱ結果と考察

全体のメインスキル平均値より，自己統制・表現力・解読力・自己主張・他者受容・関係調整の６種類が僅かながら，得意に近い値であった．その中では表現力の平均値が 4,236・自己主張の平均値が 4,332 と低い結果になった．

男女別のメインスキル平均値より，自己統制・表現力・解読力・自己主張・他者受容・関係調整の６種類のメインスキルすべてにおいて，女子より男子の平均値が高いという結果になった．

サブスキルについては，男子の善悪の判断に基づいて正しい行動を選択する「道徳観念」の平均値が 5,110 とやや得意となり，最も値が大きい結果となった．また，女子の自分の感情や心理状態を正しく察してもらう「情緒伝達」の平均値が 3,871 と最も低い結果となった．

男子の自己統制スキルにおいて，「自己の衝動や欲求を抑える」「自己の感情をうまくコントロールする」「善悪の判断に基づいて正しい行動を選択する」では平均値 4,973 であったため，5「やや得意」に近い数値であった．そのため，スポーツの試合中に癇癪をおこす状況において衝動や感情を抑え善悪を判断していることが考えられる．

表1　メインスキルとサブスキル

メインスキル	質問項目（サブスキル）
自己統制	自己の衝動や欲求を抑える
	自己の感情をうまくコントロールする
	善悪の判断に基づいて正しい行動を選択する
	周りの期待に応じたふるまいをする
表現力	自分の考えを言葉でうまく表現する
	自分の気持ちをしぐさでうまく表現する
	自分の気持ちを表情でうまく表現する
	自分の感情や心理状態を正しく察してもらう
解読力	相手の考えを発言から正しく読み取る
	相手の気持ちをしぐさから正しく読み取る
	相手の気持ちを表情から正しく読み取る
	相手の感情や心理状態を敏感に感じ取る
自己主張	会話の主導権を握って話を進める
	周りとは関係なく自分の意見や立場を明らかにする
	納得させるために相手に柔軟に対応して話を進める
	自分の主張を論理的に筋道を立てて説明する
他者受容	相手の意見や立場に共感する
	友好的な態度で相手に接する
	相手の意見をできる限り受け入れる
	相手の意見や立場を尊重する
関係調整	人間関係を第一に考えて行動する
	人間関係を良好な状態に維持するように心がける
	意見の対立による不和に適切に対処する
	感情的な対立による不和に適切に対処する

表2 メインスキル平均値とSD

メインスキル	全体		男子		女子	
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
自己統制	4.714	1.305	4.884	1.332	4.315	1.150
表現力	4.236	1.345	4.291	1.400	4.105	1.202
解読力	4.700	1.261	4.822	1.304	4.411	1.104
自己主張	4.332	1.299	4.411	1.338	4.145	1.187
他者受容	4.822	1.199	4.955	1.202	4.508	1.137
関係調整	4.752	1.182	4.856	1.216	4.508	1.063

Ⅲ結論

本研究では２つの問題点が挙げられた．１つ目は，「表現力」の自分の気持ちを表に出して相手にうまく伝える事や，２つ目は，「自己主張」の自分の意見・立場をうまく伝える事に関して他のスキルより低かった。大学生におけるコミュニケーション能力の，各メインスキル平均値が７段階中の４「ふつう」であったため，大学生のコミュニケーション能力が高いとは，一概には言えないことから，大学生の４年間を通して多くの経験や体験を積んでいくことが望ましいと思われる．

Ⅳ参考文献

1）藤本　学　大坊郁夫(2007)：コミュニケーション・スキルに関する諸因子の階層構造への統合の試み　パーソナリティ研究，15，347-361